

今週のメニュー

[トピックス](#)

Andean PVC Forum

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

[随想](#)

オックスフォード便り(その9)(終)

関東学院大学 織 朱實

[編集後記](#)

トピックス

Andean PVC Forum

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

Andean PVC Forum(アンディーン・塩ビフォーラム)は、2004年以降、隔年で開催されている中南米地域を対象とした大きな地域フォーラムです。第4回目を迎える今回は、9月28日に、コロンビアのボゴタで開催されました。

コロンビアの首都であるボゴタは、緯度としては熱帯にありながら、標高2600メートルを超える高地にあるため、涼しいというより寒いくらいです。9月の気温は、最高気温17、最低気温8ということですが、年間を通じて気温に大きな変化はなく、季節は雨期(4~5月、9月~11月)と乾期の二つとのこと。衣類、ファッションは一年を通じて変わらず、傘を持ち歩くか否かの違いだけとか。今回の訪問では雨が多く、町を行き交う人々の服装は、東京で言えば11月くらいのものでした。

ボゴタは、都市圏人口900万人をかかえる南米第4の大都市です。公共交通手段はバスで、無数のマイクロバスが市内を走り回っていますが、通勤時間帯の交通渋滞はすさまじいものがあります。このため、市の中心地区では、高速バス路線を整備する大がかりな道路インフラ工事が進められています。中心から北方向にはブランド店や映画館が入るショッピングモールがあり、東の山麓にかけて、瀟洒な高級住宅が美しいたたずまいと安心感のある街並みを形成しています。ヨハネスブルグの高級住宅街が高い外壁ともものものしい警備によってガードされているのとは対照的です。他方、市の南方には貧民街が広がっています。

コロンビアには、麻薬、内戦、誘拐などマイナスのイメージが伴いますが、近年、治安は大きな改善を見せたとのこと。デトロイトよりもよいのではないかという話を在米の知人から聞きました。そのため、この国の豊富な石炭、石油および鉱山資源が外資を惹きつけています。投資は欧米にとどまらず、中国や韓国からも入っているとのこと。タクシーのほとんどが現代自動車の新車であるところにもそのような一端が伺えます。街中に、日本車も多々走っていますが、中古車として輸入されたものがほとんどのようで、投資という点では残念ながら日本は出遅れているようです。

さて、塩ビフォーラムですが、Los Andes 大学の講堂にて、120 名ほどの聴衆を集めて開催されました。メキシコとアルゼンチンをテレビ会議で繋げ、会場だけでなくそれぞれの国の参加者からも質疑応答がありました。両会場を合わせれば 150 名ほどの参加がありました。

南米地域の経済成長は、同地域のインフラ整備を牽引し、それとともに塩ビの需要は着実に伸びています。他方、まだ、十分に社会インフラが整いきらないため、廃棄物処理やリサイクルなどでは課題を抱えています。これらは、言うに及ばず塩ビ特有の問題ではありませんが、一部では塩ビを標的としたいわれなき攻撃があります。

この会議は、広範な応用分野で使われる塩ビの役割と、環境特性、温暖化対策への貢献などについて、経験や情報を共有し、中南米での塩ビ産業の発展に役立てようとするものです。我が国からは、リサイクルの進展、樹脂窓設置の拡大による環境貢献、火災防止による災害抑制効果などについて紹介し、強い関心を集めました。欧州からは、リサイクルなどの自主的取り組みが順調に進んでいる状況について、また、米国からは、建材を中心に、施主や建築事務所らを対象として塩ビの良さをアピールする取り組みなどが報告されました。

雨で気温が低かったこともあり、休憩時のコーヒーのおいしさは印象的でした。コロンビアは世界の生産量の 1 割程度を占め、ブラジルに次ぐ生産地です。西欧ではエスプレッソが主流となってしまった昨今ですが、コロンビアでは、昔ながらの香り豊かなコーヒーを味わえました。コーヒー産業は、政治や治安の混乱の中でも、コロンビアの経済成長を支えてきた産業です。今後、政治、経済の安定とともに、塩ビがインフラ整備と経済発展を牽引する役割を担っていくことに期待したいと思います。(了)

随想

オックスフォード便り(その9)(終)

関東学院大学 織 朱實

8 月末に無事に英国オックスフォードから帰国しました。帰国する前から、「日本は、暑くて大変ですよ～」と散々脅されていたので、帰国直後の暑さにはそれほど驚きませんでした。むしろ、寒い英国(今年は特に冷夏で平均 15 度。7 - 8 月で、半そでを着たのが僅か数日。あとは全部長袖で過ごすあり様)からだったので、「夏は、やはりこうでなくては!」とさえ思ったのですが～。2 週間暑さが続くと、さすがに音をあげました。7 月からこの暑さに耐えていらっしやった皆さんは、本当に大変だったと思います。

さて、オックスフォード便り、最後は「スコットランド」をご紹介したいと思います。英国は、「グレートブリテン」「ウェールズ」「スコットランド」「北アイルランド」で構成されている連邦国家である。というのは、なんとなくわかっているのですが、「英国」といわれて、ぱっとイメージするのはロンドンを中心とした「グレートブリテン」で、「ウェールズ」「スコットランド」「北アイルランド」を含



めて英国をイメージする人は少ないと思います。私も、ロンドン、オックスフォード周辺をまわり「英国生活」をした気分でしたが、最後の最後に「ウェールズ」「スコットランド」をまわり、「あ～、ここも含めて英国とすると、英国というのはなんて多様な文化を持ったところなのだろう。ひとくくりにできないな」と改めて実感しました。ゲール語、バイキング文化、妖精伝説、神話の世界等等、独特の言い回しや様式が随所にあり、興味深いです。



スコットランドは、エジンバラ、ネス湖で有名なインバーネス、オーキニー諸島、フォートウィリアム、スカイ島、グラスゴー、とハイランドを中心に回りました。特に印象深かったのが風景が美しいハイランド地方のフォートウィリアムのベン・ネヴィス山を囲むグレンゴー渓谷とオーキニー諸島。グレンゴー渓谷は、スコットランドの独立をテーマにしたメル・ギブソン主演「ブレイブ・ハート」や「ロードオブザリング」のロケ地にも使われた景勝地。これまた名物の『ハイランド牛』がのんびり草をはんでいます。山と言っても1300mくらいなので、山が多い日本からするとそれほど高い山という感じはしないのですが、英国では一番高い山で、「グレートブリテンからきたのではこんな高い山見たことないだろう」と自慢をするタクシーの運転手さんが可愛かったです。



ブリテンからスコットランドに入ると、驚くのが、英語が通じにくくなる（聞き取りが難しい。単語は同じなのでしょうが、なぜか違う言葉に聞こえるのです。ラッシュアワーがロシアに聞こえるとか）こと、人がみんなにこにこと人なつこいこと、スコットランド自慢が凄いこと(笑)！迷っていたり、ちょっと困っている風だと必ず声をかけてくれます。なめくじが黒なのにも驚きましたね（ちなみに、ブリテンのほうはオレンジ！です。これも日本の控えめなナメクジに慣れていると驚きますが、いわゆる英国人に「スコットランドのなめくじ黒かった」というと、こちらでもびっくりされます）。



写真は、ハリーポッターが魔法学校に行くときに乗った蒸気機関車。フォートウィリアムからスカイ島に向けて走っています。英国は、スコットランドだけでなく蒸気機関車愛好者が多く、どこの地方に行っても蒸気機関車がボランティアで運営されています。私もこの1年間で各地の蒸気機関車を5回くらい乗りました。煤が髪の毛に入ってくるのが難点ですが、あの独特の「しゅしゅっぽっぽ（正に童謡と同じ音!）」という音にはやはり郷愁をそそられます。



もうひとつのお薦めは、オーキニー諸島。フェリーで渡りますが、まさに「始まりの地で終わりの地」という感じ。そこに5000年前の石器時代の住居、ストーンリングが列立しているのです。どこまでもただ広い平原の中、潮風に晒されている巨石群。まわりをエニシダ、ヒースが囲んでいる風景はちょっと忘れ難いです。海を渡る途中では、アザラシの姿も見えます。第二次世界大戦中に、ドイツ軍の侵略を食い止めるために廃船を沈めた「チェーチルバリア」も有名なオーキニー諸島は、いつか海鳥が営巣するシーズンに再訪したい場所と思っています。

さて、9回にわたって1年のオックスフォード生活をご紹介してきましたが、また面白いネタがあったら随時ご紹介できればと思います。



スコットランドの様子の写真をもっと見たい方は、私のブログもよろしければ見てください。

<http://akemiori.blog67.fc2.com/>

前回の「オックスフォード便り（その8）」は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/285/mag_285.pdf



編集後記

先週は、経済の先行きが見えない中 嬉しいノーベル化学賞のニュースが日本中を駆け巡りました。鈴木章北海道大学名誉教授と根岸英一米国パデュー大学特別教授らによる化学反応「クロスカップリング」の開発です。現在 医薬品や農薬、電子産業の液晶パネルや有機 EL の材料などの製造に幅広く活用されているそうです。正に30-40年前に研究・開発された技術が先端分野で大量に生産されている材料製造技術の基礎となっていると思うと、我々化学業界に大きな希望を与えてくれました。ノーベル化学賞が景気の起爆剤となり、明るい経済が見えてくることを期待したいですね。

ところで、関東学院大学の織先生の「オックスフォード便り」が今回で最終稿となりました。英国の素晴らしい写真を沢山頂いていたのですが、紙面の都合でかなり割愛させて頂きました。ご興味のある方は織先生のブログをご覧ください。1年間のご愛読有難う御座いました。(薩弘)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
